(3) 検証授業案

段階	学習活動・内容	○教師の支援活動　☆仮説との関連 □評　価
前時までの活動	1．最終的な反対と賛成の立場に分かれる。 2．各立場ごとにグループを編成する。 3．それぞれのグループごとにどのように調べるか考える。 ・役割分担 ・調査内容と対象 ・調査日程 4．各グループの調べる視点に基づき、調査活動と資料の整理を行い、考えをまとめる。 5．各立場ごとに発表会を実施しディベートの打ち合わせを行う。	○名札マグネットで確認する。 ○グループは４名以内にすることを指示する。 ☆調べる方法を考えさせ、意見が出ない場合は支援を与える。【資料－１】 □協力しながら意欲的に調べ学習を行うことができたか。［興味・関心・意欲］（観察・自己評価・相互評価表） ○根拠を明確にして裏付ける資料を作成できるように支援する。 ☆反対派と賛成派それぞれに教師が付いてＴ・Ｔで支援にあたる。 □自分の意見を裏付ける資料を作成することができたか。［資料活用の技能］（作成資料、ワークシート） □資料に基づいて自分の考えや意見を深めてまとめることができたか。［思考・判断］（ワークシート） ○ディベートの代表者を決めさせ、発表の仕方について指導する。 ○反対尋問の質問を考えさせ、各立場に付いている教師がその支援にあたる。 ○予想される相手側から出される質問を想定させ、答えられるように準備させる。
導入	1．本時の授業の進め方について説明を聞く。 ・題材を確認する。 「鶴ケ城本丸入場料有料化に賛成か、反対か」 2．発表の準備をする。	○本時の授業について次の指示を与える。 ・司会は教師が務める。 ・代表者は３分で立論を述べる。 ・反対尋問と応答を５分ずつ行う。 ・作戦会議を２分確保する。 ・最終弁論は３分で述べる。 ・代表者以外はディベートについて評価する。 ・最後に各自が意思決定を行う。
展開	3．各立場の立論を述べる。 4．作戦会議を行う。 5．質疑応答を行う。 6．最終弁論を行う。	○ディベートがスムーズに進められるように教師が司会とタイムキーパーを務める。 ○作戦会議の際は、各立場に付いている教師が支援する。 □ディベートの話し合いに関心を持ちながら参加しているか。［興味・関心・意欲］（観察） □ディベートの話し合いを通して、地方の財政や直接民主制などの地方の政治について理解することができたか。［知識・理解］（観察）
まとめ	7．ディベート参観者が感想を述べる。 8．題材に対する自分の考えや意見をまとめる。 9．本時の学習を振り返る。	○参観した生徒および教師に本時のディベートに対する感想を求める。 □ディベートを通して最終的な自分の考えや意見をまとめることができたか。［思考・判断］（ワークシート） □自己評価に記入させ、政治（身近な地域の問題）について自分の意見を持つことの大切さに気付くことができたか。［興味・関心・意欲］（自己評価表）

【資料－３　「調べ学習の支援」】

調査方法例

ア．街頭アンケートを実施する。→放課後
・大人を対象に

イ．保護者へのアンケートを実施する。→アンケート用紙
・　クラスの保護者に協力を求める

ウ．市役所職員へ質問する。（要予約：植村）→放課後
・　観光課…この問題の提案者に聞く
・　財政課…市の財政事情

エ．市会議員に質問する。（要予約：植村）→放課後
・　行政を監視する立場の人に意見を求める。

オ．他のお城の実態を調査する。→放課後、電話
・　電話で他のお城の入場者数の推移や入場料について聞いてみる。

カ．鶴ケ城管理事務所に行って調べてくる。→放課後
・　この問題について、鶴ケ城を管理する立場の人はどのような意見を持っているか調べる。

キ．青年会議所のスタッフに聞く。（要予約：植村）→放課後
・　地域の活性化のために活動を行っている青年会議所のメンバーはどのように考えているか。

ク．鶴ケ城を訪れている観光客に聞く。→土または日
・　観光客はこの問題についてどのように思うのか聞いてくる。

ケ．若松観光産業の実態を調査する。→放課後、電話
・　他の施設に電話で問い合わす。
・　入場者数の推移
・　減少の場合の対策は？

2　検証授業の実際と考察

(1)　検証の観点

①　生徒の社会科に対する意識について、事前と事後にアンケート調査を実施し、どのように変容したかをとらえる。

②　自己評価表を活用して、課題（ディベートの論題）に対する思考・判断の推移をとらえる。

③　ディベート的な話し合い活動の導入により生徒の思考・判断がどのように変容したかを生徒観察や自己評価からとらえる。

④　生徒の思考力・判断力を育成する手立てとしてディベート的な話し合い活動の導入の有効性についてＦＣ法による研究協議会を開催する。

(2)　授業の実際

ア　反対側→賛成側への質疑・応答

反Ｓ１「なぜ、有料化にこだわるのですか。」
賛Ｓ１「税金を鶴ケ城にばかりお金をかけられないのが市の財政状況だからです。」
反Ｓ２「朝の散歩を生きがいにしているおじいちゃんやおばあちゃんの生きがいも奪うのですか。」